

# 陸生ホタル研

No.137

2024年11月20日

陸生ホタル生態研究会

電話：FAX042-663-5130

Em:rikuseihotaru.07@jasmine.ocn.n

フィールドからの証言その29

## 高尾山の林道に見る酷暑のマイナス遺産

小俣軍平

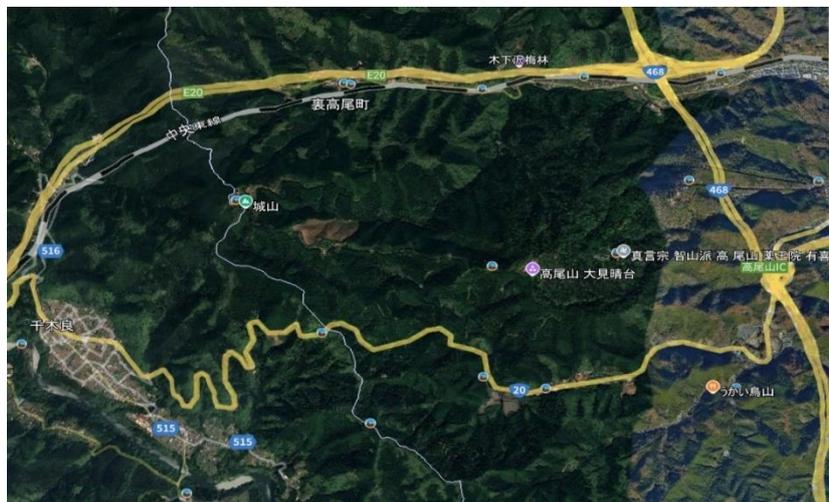
### 1 はじめに

月報136号で、酷暑に見舞われた多摩丘陵の赤道の状況を報告しましたが、八王子市と  
いえば、年間300万以上の観光客が国の内外から訪れ、日本遺産にも選ばれている高尾山  
があります。皆さん方よくご存じの山で、動植物の生態についても、数多くの研究書籍が  
みられます。ここから学名のつけられた動・植物も多く親しまれています。日本のホタル  
生態研究の神様、神田左京先生も大正期から昭和期にかけて訪れて研究をされています。

そのため、全山調査研究のための道筋も、1から10号まで研究路として大変よく整備さ  
れています。至れり尽くせりの山ですが、それでも「え？ 人に知られていない林道 そん  
な……？」と、言われるような林道も1・2あります。

陸生ホタルの生態研究にはこうした道筋も好都合で、私達は板当沢時代から、これまで  
20年以上もお世話になってきました。それゆえに今年の酷暑でそこがどうなったのか、  
多摩丘陵と同じく気になっていました。そこで、10月30日久しぶりに、そのうちの一つ  
を訪れてみました。以下その結果の報告です。

1:図 高尾山の位置 上が中央道 右側が圏央道 下が国道20号です



2：図 1：図の拡大図 赤線が林道の位置 赤丸が入り口で東へ行き止まりの林道です。



## 2 調査結果

3：図 林道の入り口 全長2km程のこの林道は、行き止まりの道のためか、登山者は歩きません。行政の担当者が歩きます。この日、入り口のゲイトは草木に覆われていましたが、手で押し分けて立ち入りすることはできました。ゲイトの手前は、19号台風の時、崩落したまま修復されていません。担当部署で費用の獲得が難しいのでしょうね。お気の毒です。



4：図 入り口から 100m 程 何とか歩ける状況です。



5：図 200m ほど進んだ場所 やはりここでも異変が起きていました。



高尾山は、地質のうえでは日本列島のホッサマグナにすっぽり収まり、堆積岩で覆われています。この地層は、風化しやすく風雨にさらされると、この図の黄色円の様に、細かく碎けて崩壊します。この日この林道の山側法面は、この図のように、この夏の気象異変で小規模の地滑りのような形で、崩落がおきていました。

これは大変です。この林道にはこれまで山側のこのような場所に、オバボタル・クロマドボタル・ムネクリイロボタル・カタモンミナミボタルが生息し、山側道端の湧き水のたまりには、スジグロボタルやモリアオガエルが生息していました。その法面に崩落がおきています。水たまりは埋まり消滅しました。

6: 図 ここも同じです。ホタルの幼虫は災害を避けることができたのでしょうか、それとも埋められてしまったのでしょうか。



7: 図 落枝がひどいです。崩落もあります。多摩丘陵の報告でも書きましたが落枝は、大変危険です。命にかかります。私もこの日、足もとと上を見ながら見構えて慎重に歩きました。



8:図 ここは大丈夫です。以前の良好な自然環境が残っていました。赤線の所、来年の春法面にホタルの幼虫の発光が期待できそうです。



9:図 入口から 1000m 程、ここも良好です。山側に災害は起きていません。イノシシのミミズ探しのラッセルも見られませんでした。



10：図 先の場所から 100m 程奥ですが、落枝が散乱し崩落も起きています。



11：図 ここも崩落が起き樹木が倒れています。奥の方は道幅の半分が埋まっています。



12:図 ここは大丈夫でした。落枝も崩落もありません、昔の儘でした。



13:図 ここは 入り口から 1700m ほどの地点、山側が崩落で道幅の 3 分の 1 埋まり、落枝や倒木、枯れ枝の垂れ下がりが見られます。危険な状態です。



14 : 図 ここでも中規模の崩落が起きて危険な状態です。



15: 図 この奥で行き止まりです。人が歩きませんので、夏の間野草が路面に生い茂りました。歩いて立ち入りはできました。



16: 図 終点です。ひと夏で路面が消えました。



ご覧いただきましたように、季節が10月ということもあるかとと思いますが、この環境の林道で動物の姿がほとんど見られません。小型のガ・シジミチョウが数匹飛んでいただけです。林立する樹木に野鳥の姿・鳴き声は聞こえましたが……、これも少ないです。

陸生ホタルがどうなったのか、来年の6月の羽化の季節に調査をしないとよくは判りませんが、生き残っていてくれと祈るばかりです。

余談になりますが、次の図（17：図）の様に林道には工事車両対象のカーブミラーもついでありますし、この標識のある所、獣道を利用して左手下へ下る緊急避難用の赤標識がついた下山道（17：図）もあります。道中の大半が60度以上の急斜面で、危険です。

17：図



18：図 赤円内 赤い布切れの標識が結んであります



### 3 まとめ

以上、高尾山の裏道から、この夏の酷暑の影響を見てきましたが、自然保護問題を考えますと「池の沢緑地」問題以上に、高尾山には書き残しておかないといけない重要な問題があります。今回のはじめにも触れましたが、日本遺産の高尾山にはかつて、その存在意義を伝える東京都立高尾博物館がありました。しかし、この博物館は2004年に廃館になりました。「東京都には国立博物館があるので、都立の博物館は必要ない」と言うことでした。当時八王子市だけでなく、都内の自然保護団体もこぞって、東京都で唯一の博物館をつぶさないでと反対したのですが、止めることが出来ませんでした。

廃館になった博物館の標本は、その後廃校となった八王子市立稲荷山小学校の教室を使って保管はされています。しかし、この標本は公開されていませんので、都民・一般の市民が利用することが出来ません。標本の保管に当たってはそれ相応の資格を持った専門の職員が必要ですが、現在の所そうした対応はとられていません。

当時の博物館の建物は、現在「TAKAO 599 MUSEUM」として残っています。施設を利用して都立博物館時代の標本の一部を展示公開していますが、運營業務が都や八王子市ではなく京王電鉄に委託されています。そのため普通の職員はいますが、学芸員は一人もいません。それでも「MUSEUM」なのでしょうか。高尾山の動植物に関する問題をもって窓口を訪れてみても、謎解きをしてくれる方がいません。

あとがき

今年は歳のはじめから能登半島の大地震が発生し、それに続く全国各地で異常気象による自然災害の多発と、これまで経験したことの無い大変な日常でした。冬をむかえて、今なお仮設住宅でお過ごしの方、コロナは下火になりましたが、どうぞお体を大切に災害復旧作業が進展し、ご自宅に1日でも早く帰れますようにお祈りいたします。

陸生ホタル研は、これまでクロマドボタルを中心に、北海道から沖縄まで、陸生ホタルの生態調査に出かけておりますが、唯一能登半島だけが調査できずに過ぎてきました。痛恨のきわみです。

今回の地震は、大規模な地殻変動を伴うものでしたので、これが半島の生物、とりわけ土壌動物にどのような災害をもたらしたのか、私達には想像もできません。調査の再開については、よく検討して慎重に対処しなければ・・・と、思っています。